

科 目	自然科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	1・2学期
教員名	米山 乃生子	教員区分	一般教員

教科書	医歯薬出版株式会社 歯科衛生士教本 「化学」「生物学」
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	毎回の小テストをしっかりと理解する。

科目の目標	歯科衛生士として必要な自然科学を学ぶ。
授業概要	化学・生物学

日程

回数	授業内容
1	物質とはなんだろう
2	気体について知ろう
3	水溶液について知ろう
4	コロイドについて知ろう
5	酸とアルカリの水溶液
6	酸化と還元
7	有機化合
8	ヒトを作っているものは何だろう
9	生命
10	組織と細胞
11	生命の連続
12	刺激の受容と反応
13	内部環境を保つ仕組み
14	動物の行動と進化
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	医療人間科学 I	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1 学年
		実施学期	1 学期
教 員 名	松井 慶太	教員区分	一般教員

教科書	「歯科衛生学 辞典」全国歯科衛生士教育協議会 監修（永末書店） 他、適宜指示する。
参考書	授業プリントは適宜配布・指示する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	歯科衛生士を目指す学生として、正しい国語表現が出来る事については、常に考えること。

科目の目標	歯科用語小辞典を使用した記録の記載、自分の言葉で考察を加えた記録の記載、文章読解力の習得に留意を置く。
授業概要	専門用語に慣れ、記載内容等を理解した上で、文章読解能力を高める。

日程

回 数	授業内容
1	文章の読解①
2	文章の読解②
3	文章の読解③
4	文章の読解④
5	文章の読解⑤
6	記録・考察の記載①
7	記録・考察の記載②
8	記録・考察の記載③
9	記録・考察の記載④
10	記録・考察の記載⑤
11	国家試験問題の解き方①
12	国家試験問題の解き方②
13	国家試験問題の解き方③
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	解剖学（組織発生学を含む）	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	南澤 直子	教員区分	一般教員

教科書	「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特になし。授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	ただの暗記に留まらず、より理解を深めるために自主的・積極的に授業に臨むこと。

科目の目標	今後学んでいく専門知識の基盤となる、人体の構造と機能に関する知識を身につける。
授業概要	人体の構造と機能を学習する。

日程

回数	授業内容
1	人体の構造と機能を学ぶにあたって／細胞と組織
2	発生
3	骨格系 概説
4	骨格系 各部
5	筋と運動 概説
6	筋と運動 各部
7	筋と運動 運動
8	循環① 概説と心臓
9	循環② 動脈と静脈
10	循環③ リンパ系・循環のまとめ
11	神経系① 概説と神経系の構成
12	神経系② 中枢神経
13	神経系③ 末梢神経
14	伝導路・神経系のまとめ④
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	生理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1 学年
		実施学期	1 学期
教 員 名	熊澤 真理子	教員区分	一般教員

教科書	「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	休まず出席し、授業終了後、練習問題等を復習すること。

科目の目標	人の基本的構造や機能を理解し、臨床に必要な生理学の知識を習得する。
授業概要	授業を通して国家試験に頻出する知識を確認する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、生理学とは、恒常性
2	体温
3	血液（1）
4	血液（2）
5	排泄（1）
6	排泄（2）
7	内分泌（1）
8	内分泌（2）
9	生殖
10	呼吸
11	循環
12	消化と吸収（1）
13	消化と吸収（2）
14	感覚
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	口腔解剖学 (口腔組織発生学を含む)	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	中尾 正	教員区分	一般教員

教科書	「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	教科書を中心に予習、復習を行い、国家試験合格のための基礎力をつけること。

科目の目標	歯科衛生士にとって必要な口腔解剖学・口腔組織発生学の知識を習得する。
授業概要	歯科衛生士にとって重要なポイントを中心に講義形式で解説する。

日程

回数	授業内容
1	骨学1：頭蓋骨 (P18～34)
2	骨学2：下顎骨、顎関節 (P30～34, 42～44)
3	筋学：表情筋、咀嚼筋、舌骨上筋 (P34～42)
4	脈管学：動脈、静脈、リンパ系 (P45～56)
5	神経学1：神経の分類、自律神経 (P56～67)
6	神経学2：脳神経12対 (P56～67)
7	口腔内部の解剖 (P10～18)
8	鰓弓と口腔の発生 (P2～9)
9	歯の発生学：先行歯の発生 (P208～217)
10	歯の組織学1：歯の構造 (P218～239)
11	歯の組織学2：歯周組織の構造 (P236～249)
12	歯の組織学3：歯肉 (P246～251)
13	口腔解剖学総復習、試験対策練習問題
14	組織発生学総復習、試験対策練習問題
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	歯牙解剖学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	山口 絢香	教員区分	一般教員

教科書	「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	講師作成による配布資料。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業に必要な物品を持参する。毎回手鏡を持参すること。

科目の目標	歯科医療の基本となる歯牙の特徴を観察することにより習得する。
授業概要	歯科衛生士の業務の基盤となる口腔および歯牙に関して講義や演習で総合的に学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	歯牙の客観的観察・形態・種類・機能。歯の表示法・歯式
2	永久歯の形態の観察と機能（前歯）
3	永久歯の形態の観察と機能（小白歯）
4	永久歯の形態の観察と機能（大白歯）
5	乳歯の形態の観察と機能
6	歯列と咬合・特色のある歯の形態についての総復習
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	口腔生理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1 学年
		実施学期	1 学期
教 員 名	守 谷 友 二 朗	教員区分	一般教員

教科書	「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	休まず出席し、復習をしっかりと行うこと。

科目の目標	口腔顎顔面領域に現れる生命現象のメカニズムを学び、医療現場で遭遇する様々な病態に対する病因の理解とその解決力を養う。
授業概要	顎顔面口腔領域の感覚、咀嚼、吸啜、摂食・嚥下、発声、嘔吐など生理的なメカニズムを学習する。

日程

回 数	授 業 内 容
1	第3章 歯と口腔の感覚
2	第4章 味覚と嗅覚
3	第5章 咬合と咀嚼・吸啜
4	第6章 嚥下と嘔吐
5	第7章 発声
6	第8章 唾液
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	衛生学・公衆衛生学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
教員名	熊澤 真理子	実施学期	1学期

教科書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）		
参考書	特に指定しない。		
成績評価	定期試験で評価する。		
留意事項	授業に教科書を必ず持ってくること。 遅刻せず、休まず出席すること。		

科目の目標	地域保健・公衆衛生の基礎的な知識を習得する。 各ライフステージにおける法律や制度について知る。		
授業概要	各ライフステージにおける法律や制度について、教科書に沿って学習する。		

日程

回数	授業内容
1	1章 総論（Ⅰ編） 9章 国際保健（Ⅲ編）
2	8章 災害時の歯科保健（Ⅲ編） 各章のオリエンテーション
3	3章 人口（Ⅰ編）
4	4章 健康と環境 ①
5	4章 健康と環境 ②
6	5章 感染症
7	6章 食品と健康 1章
8	1章 地域保健と公衆衛生
9	1章 地域保健と公衆衛生②
10	2章 母子保健 ①
11	3章 学校保健
12	4章 成人保健
13	5章 産業保健 6章 老人（高齢者）保健
14	7章 精神保健 2章 疫学（Ⅰ編）
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	口腔衛生学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	大谷 悦世・竹之内 茜	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	基礎となり実習へとつながっていくので休まず出席し、よく予習復習すること。

科目の目標	口腔内の情報収集の方法について理解できる。歯と口腔の健康と予防に関する基礎知識を習得する。
授業概要	口腔清掃指導に必要な知識と歯科疾患の予防方法を学習する。

日程

回数	授業内容	
1	総論 / 歯・口腔の健康と予防, 口腔清掃	(大谷)
2	口腔清掃法①	(大谷)
3	口腔清掃法②	(大谷)
4	口腔清掃法③	(大谷)
5	口腔清掃法④	(大谷)
6	歯磨剤と洗口剤	(大谷)
7	食生活指導のための基礎知識①	(大谷)
8	食生活指導のための基礎知識②	(大谷)
9	口腔衛生管理に関わる指導①	(竹之内)
10	口腔衛生管理に関わる指導②	(竹之内)
11	口腔衛生管理に関わる指導③	(竹之内)
12	口腔衛生管理に関わる指導④	(竹之内)
13	口腔衛生管理に関わる指導⑤	(竹之内)
14	口腔衛生管理に関わる指導⑥	(竹之内)
15	定期試験	(大谷・竹之内)
16	定期試験の解答と解説	(大谷・竹之内)

科 目	歯科衛生士概論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	小林 明子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科衛生学総論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	講師作成による配布物。
成績評価	提出物、定期試験にて評価する。
留意事項	休まず出席し、歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」の予習をして授業に臨むこと。 レポートの提出があるので、期日を守り提出すること。

科目の目標	歯科医療の役割、歯科衛生士像や使命を明確化し、歯科医療の基礎を学ぶ目的を理解する 医療の中で必要とされる歯科衛生士のミッションを理解する。
授業概要	歯科衛生士の役割、理念、歯科臨床における法的業務について、を学習資料（歯科衛生教本 を中心として）総合的に学ぶ。チーム医療、多職種との関わりを明確化する。

日程

回数	授業内容
1	健康の概念 歯科医療にかかわる対象者 歯科衛生士について 歯科衛生士の歴史的背景と役割の変化
2	歯科衛生士法 歯科衛生士業務(業務の独占、名称の独占)について 医療倫理について (インフォームドコンセント、など)
3	予防の概念 歯科衛生活動に必要な知識
4	歯科衛生とリスク管理 医療安全、感染予防対策
5	歯科衛生過程について (演習含む)
6	チーム医療、多職種との連携について、 これからの医療の中で必要とされる歯科衛生士について
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科予防処置 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1 学年
		実施学期	1 学期
教員名	清尾 奈津子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	小テスト、提出物、定期試験を総合して判断する。
留意事項	基礎知識となるのでよく復習すること。休まず出席し、積極的に講義に臨むこと。

科目の目標	正常な歯、歯周組織と口腔の構造について理解できる。 歯と口腔の健康と予防に関する基礎知識を習得する。
授業概要	専門基礎分野の知識と関連づけながら口腔の構造、う蝕、歯周病の概要を知り、歯科予防処置について学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	歯・口腔の健康
2	歯・口腔の付着物・沈着物
3	フッ化物によるう蝕予防①
4	フッ化物によるう蝕予防②
5	フッ化物によるう蝕予防③
6	フッ化物によるう蝕予防④
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科保健指導 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	大谷 悦世	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業をしっかりと聞き、予習復習を行い、次の授業に役立てること。休まずに出席すること。

科目の目標	歯科保健指導とは何かを理解し、歯・口腔の健康の維持、増進するために必要な基礎知識を身につける。
授業概要	歯科保健指導を実施するために必要な基礎知識を習得する。

日程

回数	授業内容
1	歯科保健指導のための基礎知識①
2	歯科保健指導のための基礎知識②
3	歯科保健指導のための基礎知識③
4	歯科保健指導のための基礎知識④
5	歯科保健指導のための基礎知識⑤
6	歯科保健指導のための基礎知識⑥
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科診療補助 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	深澤 佳世	教員区分	一般教員

教科書	「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	忘れ物をしないように心掛け、予習復習をしっかりと行い授業に臨むこと。

科目の目標	歯科医療を安全かつ円滑に行うために、必要となる歯科診療補助の基本的な知識を習得する。
授業概要	歯科医療を安全かつ円滑に行うために必要となる歯科衛生士の役割を理解し、それに関する基礎知識を学習する。

日程

回数	授業内容
1	歯科診療における基礎知識①
2	歯科診療における基礎知識②
3	歯科診療における基礎知識③
4	歯科材料の基礎知識①
5	歯科材料の基礎知識②
6	歯科材料の基礎知識③
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科診療補助Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	畑山 範子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	歯科診療補助Ⅰで学習した内容をよく復習して臨むこと

科目の目標	歯科医療を安全かつ円滑に行うために、必要となる歯科診療補助の基本的な知識を習得する。
授業概要	歯科医療を安全かつ円滑に行うために必要となる歯科衛生士の役割を理解し、それに関する基礎知識を学習する。

日程

回数	授業内容
1	歯科材料の基礎知識①
2	歯科材料の基礎知識②
3	歯科材料の基礎知識③
4	歯科診療補助における基礎知識①
5	歯科診療補助における基礎知識②
6	医療安全と感染予防
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	健康社会学	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	加藤 美生	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	授業プリントは適宜配布・指示する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	日常的に広く周囲に目を向けて、健康や医療に関する情報を取得すること。

科目の目標	健康や病気と社会とのかかわりについて基礎的理解を深めるのと同時に、医療者として市民が健康や病気への積極的に対峙する力を育むのにどのように支援するのかについて理解する。
授業概要	歯科衛生士の役割や医療特有のコミュニケーションについて概説する。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション、健康とは何か
2	社会によりもたらされる健康と病気
3	健康づくりのためのヘルスコミュニケーション
4	健康づくりに必要なリーダーシップ
5	ライフステージ別の健康課題
6	健康なまちづくり
7	健康な学校づくり
8	健康な職場づくり
9	健康な病院づくり
10	健康な家庭づくり
11	医療とメディア
12	リスクコミュニケーション
13	実力確認テスト
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	口腔病理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	熊澤 真理子	教員区分	一般教員

教科書	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業に教科書を必ず持ってくる。練習問題は、復習すること。 遅刻せず、休まず出席すること。

科目の目標	病理学で学んだ知識をもとに、歯科衛生士として臨床現場でみることになる口腔領域の疾病を学ぶ。
授業概要	歯科衛生士として必要なポイントを講義形式で解説する。

日程

回数	授業内容
1	口腔病理学とは 唾液腺の病変
2	口腔癌
3	口腔領域の奇形
4	歯の損傷と着色・付着物
5	歯の発育異常
6	う蝕
7	象牙質・歯髄複合体病変
8	歯周組織の病変
9	1回～8回 総括
10	口腔粘膜の病変
11	口腔領域の膿疱と腫瘍
12	顎骨の病変
13	口腔組織の加齢変化
14	10回～13回 総括
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	病理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	山口 絢香	教員区分	一般教員

教科書	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	講師作成の配布資料
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	休まず出席すること。

科目の目標	疾病の原因・発症機序・進展および転帰を理解し、疾病の予防や治療の基礎となる知見を総合的に習得する。
授業概要	臨床で遭遇する全身疾患を講義や学習映像資料を通して学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	第1章 病理学序論と病因論 & 第2章 遺伝性疾患と奇形
2	第3章 循環障害 および 脳血管疾患
3	第4章 代謝障害と退行性病変
4	第5章 増殖と修復
5	第6章 炎症と免疫応答異常
6	第7章 腫瘍 COPD
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	微生物学（口腔微生物学）	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	鈴木 敏彦	教員区分	一般教員

教科書	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」全国歯科衛生協議会 監修 (医歯薬出版)
参考書	「標準微生物学 第13版」(医学書院)
成績評価	定期試験・提出物を総合して評価する。
留意事項	予習・復習に努めること。

科目の目標	微生物（口腔微生物）とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態、生体の防御機構としての免疫、に関する基本的知識を修得する。
授業概要	パワーポイントを用いた遠隔授業、配布資料を用いて授業を進行する。さらにプレ・ポストテストによる確認などにより理解を深める。

日程

回数	授業内容
1	感染症の歴史、微生物の構造
2	微生物の増殖や生理
3	感染と感染経路
4	生体防御とワクチン
5	グラム陽性細菌による感染症
6	グラム陰性細菌による感染症
7	細胞内寄生細菌、抗酸菌による感染症
8	真菌による感染症
9	口腔内フローラ
10	口腔内の細菌感染症と関連疾患
11	顎顔面、口腔領域に関連するウイルス感染症
12	その他のウイルス感染症
13	滅菌と消毒、感染管理、微生物学演習（口腔細菌の培養、手指のアルコール消毒と培養）
14	化学療法の基礎知識、微生物学演習（口腔細菌の培養、手指のアルコール消毒と培養）
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	生化学(栄養学)	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	和気 創	教員区分	一般教員

教科書	「人体の構造と機能2 栄養と代謝」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	休まず授業に臨むこと。

科目の目標	生体の構成成分の代謝過程を理解し、口腔生化学およびう蝕、歯周病などの口腔疾患の生化学を学ぶ。栄養素の働きや代謝過程を理解し、適正な栄養摂取に関する知識を習得する。
授業概要	生体を構成する様々な物質の特徴や代謝過程を学び、その知識に基づいて口腔生化学の知識を習得する。栄養素の働きや意義を学び、食生活と健康との関わりを理解する。

日程

回数	授業内容
1	生体の構成要素、三大栄養素の特徴
2	糖質、脂質の種類と代謝
3	アミノ酸、タンパク質の種類と代謝、DNA と遺伝子
4	ミネラルとビタミンの働きと欠乏症、栄養素の消化と吸収
5	生体の恒常性の維持
6	歯と歯周組織(結合組織)
7	歯と歯周組織(歯)
8	硬組織の生化学
9	唾液の生化学
10	プラークの生化学(う蝕)
11	プラークの生化学(歯周病)
12	栄養の基礎知識、食事摂取基準
13	栄養素の働きと意義
14	食生活と健康
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	歯周病学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	南澤 直子	教員区分	一般教員

教科書	「歯周病学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	ただの暗記にとどまらず、より理解を深めるために自主的・積極的に授業に臨むこと。

科目の目標	歯周病治療は臨床においても歯科衛生士の果たす役割が非常に大きく、やりがいを感じる ことのできる分野である。基本的知識からしっかりと身につけることを目標とする。
授業概要	授業は教科書をベースに、適宜プリントやスライドを用いて説明していく。

日程

回数	授業内容
1	歯周病概論／正常な歯周組織の構造と機能
2	歯周疾患の分類
3	歯周疾患の原因
4	歯周治療の進め方
5	歯周病の検査
6	歯周基本治療
7	歯周外科治療（1）
8	歯周外科治療（2）
9	前半のまとめと復習
10	歯周治療としての口腔機能回復治療
11	メンテナンス
12	歯周治療における歯科衛生士の役割（1）
13	歯周治療における歯科衛生士の役割（2）
14	歯周治療における歯科衛生士の役割（3）
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	歯科予防処置実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	64
		履修年次	1学年
		実施学期	2・3学期
教員名	久間 雅代	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	適宜指示あり。
成績評価	実技試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士に不可欠な器具の授業となるので欠席しないこと。 ・身だしなみをしっかり整え、忘れ物がないようにし、医療従事者になるという自覚を持って授業に臨むこと。実技試験は3学期に実施する。

科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔内情報収集の方法を知り、実践できる。 ・相互実習を行う中で、患者を思いやる心や協力する態度を養い、各自の技術の向上に努める。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科予防処置で使用する器具・機械を衛生的で安全、かつ適切に使用できるよう、マネキン実習・相互実習を通して習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション、実習室の使用・清掃方法①
2	実習室の使用・清掃方法②
3	口腔内の情報収集、口腔内検査①
4	口腔内の情報収集、口腔内検査②
5	口腔内の情報収集、口腔内検査③
6	口腔内の情報収集、口腔内検査④
7	口腔内の情報収集、口腔内検査⑤
8	口腔内の情報収集、口腔内検査⑥
9	口腔内の情報収集、歯周組織検査①
10	口腔内の情報収集、歯周組織検査②
11	口腔内の情報収集、歯周組織検査③
12	口腔内の情報収集、歯周組織検査④
13	口腔内の情報収集、歯周組織検査⑤

14	口腔内の情報収集、歯周組織検査⑥
15	口腔内の情報収集、歯周組織検査⑦
16	総復習

科 目	歯科保健指導Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	大谷 悦世	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	基礎となり実習へとつながっていくので休まず出席し、よく予習復習すること。

科目の目標	口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する。
授業概要	各ライフステージ別の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動を説明でき、口腔衛生指導を学習する。

日程

回数	授業内容
1	ライフステージにおける歯科衛生介入①
2	ライフステージにおける歯科衛生介入②
3	ライフステージにおける歯科衛生介入③
4	ライフステージにおける歯科衛生介入④
5	ライフステージにおける歯科衛生介入⑤
6	ライフステージにおける歯科衛生介入⑥
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科保健指導実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	枝川 祥子	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	適宜指示あり。
成績評価	実技試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	1学期に習得した保健指導の知識を再確認し、実習に臨む。

科目の目標	歯科保健指導とは何かを知り、人々に対し、歯・口腔の健康の維持・増進を支援するために必要な基本的知識と技術、および態度を習得する。
授業概要	歯科保健指導に必要な基本的技術、医療面接をマネキン実習・相互実習を通して習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	医療面接・口腔内観察・歯垢染色・口腔清掃法・口腔清掃指導①
3	医療面接・口腔内観察・歯垢染色・口腔清掃法・口腔清掃指導②
4	医療面接・口腔内観察・歯垢染色・口腔清掃法・口腔清掃指導③
5	医療面接・口腔内観察・歯垢染色・口腔清掃法・口腔清掃指導④
6	医療面接・口腔内観察・歯垢染色・口腔清掃法・口腔清掃指導⑤
7	医療面接・口腔内観察・歯垢染色・口腔清掃法・口腔清掃指導⑥
8	医療面接・口腔内観察・歯垢染色・口腔清掃法・口腔清掃指導⑦
9	医療面接・口腔内観察・歯垢染色・口腔清掃法・口腔清掃指導⑧
10	医療面接・口腔内観察・歯垢染色・口腔清掃法・口腔清掃指導⑨
11	総復習①
12	総復習②
13	口腔内カメラ実習①
14	実技試験/口腔内カメラ実習②
15	実技試験/口腔内カメラ実習③
16	実技試験の解答解説

科 目	歯科診療補助実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	猪俣 理恵	教員区分	実務教員

教科書	「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	実技試験、出席、身だしなみ、授業態度、提出物を総合的に評価する。
留意事項	身だしなみを整え、忘れ物が無いよう臨むこと。予習として教本に目を通し、読めない漢字や文字が無いよう心掛けること。時間を有効に使い、チームワークを意識しながら協力して授業に臨むこと。また、欠席しないよう体調管理に気を配ること。

科目の目標	歯科診療補助に関する基本知識を学び、実際の歯科診療補助に必要な技術及び態度を習得する。
授業概要	マネキンと模型による実技実習を行う。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1	実習オリエンテーション①
2	実習オリエンテーション②
3	歯科診療における基礎知識
4	歯科材料の取り扱い①
5	歯科材料の取り扱い②
6	歯科材料の取り扱い③
7	衛生材料の取り扱い
8	歯科材料の取り扱い④
9	歯科材料の取り扱い⑤
10	模型の作製①
11	模型の作製②
12	模型の作製③
13	総復習①

14	実技試験
15	実技試験
16	総復習②

科 目	特別教養科目 (接遇・作法)	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単 位 数	1
		時間数	16
		履修年次	1 学年
教員名	岡田 稔仁	実施学期	2 学期

教科書	講師作成のハンドアウト
参考書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	講義の受講のみならず、実技演習も行う。予習・復習に勤しむこと。 受講マナーを遵守して授業に臨むこと。

科目の目標	職場の現場で働くスタッフが、ホスピタリティの本当の意味を理解し、日常業務の中で接遇とマナー溢れる行動をとれるようにする。
授業概要	事前課題を提示するので、講義前から自分の「ホスピタリティの感性」を確認し、当日の講義をより効果的にする。講義/実技/ディスカッションの体験型研修により“腹落ち”して実践できるようにする。参加者同士のコミュニケーションを活性化し、より多くの「事例」とその「考え方」を共有し、柔軟性のある対応を身につけるようにする。

日程

回 数	授業内容
1	はじめに (1)接遇・作法とは？ (2)なぜ、ホスピタリティは大切か？ / ホスピタリティは難しいこと？ (3)「お・も・て・な・し」 / 世界が見る日本のおもてなし文化
2	ホスピタリティとは？ (1)ホスピタリティの概念 ①ホスピタリティとサービスの違い②日本流ホスピタリティ：日本の生活文化、地域社会に根づいたホスピタリティ (2)ホスピタリティ・マインド(おもてなしの心)：21世紀はホスピタリティ社会 (3)ノーマライゼーションと高齢化社会
3	ホスピタリティの感性を磨く【ディスカッション：事前課題】 (1)心温まるちょっといい話 (2)記憶に残る良いサービスと悪いサービス
4	ホスピタリティの事例 (1)カスタマーフォーカス (2)マナーの徹底 (3)ひとの心が動く時 (4)その他の取り組み事例
5	ポストテスト ホスピタリティの自己表現 その1 (1)基本マナー(マナーとは？/身だしなみ/挨拶・お辞儀/表情) (2)立ち居振る舞い(心構え/基本動作/スマートな身のこなし)
6	ホスピタリティの自己表現 その2 (3)言葉遣い(敬語/間違いやすい敬語/ホスピタリティのある話し方・聞き方) (4)電話対応の基本 (5)ビジネスメールの基本
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科保存修復学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	菅野 文雄	教員区分	一般教員

教科書	「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復学・歯内療法学」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	予習よりも復習を重視するように。

科目の目標	歯牙硬組織の疾患及びその治療方法の臨床実習に即した知識を習得する。
授業概要	歯牙硬組織の疾患と治療方法を学習する。

日程

回数	授業内容
1	保存修復学とは 歯牙硬組織の疾患 (う蝕性、非う蝕性)
2	窩洞について 歯の切削器具 (レーザーを含む) 動画 (直接法修復)
3	直接法修復 (コンポジットレジン、グラスアイオノマー)
4	動画 (間接法修復) 間接法修復 (合着材、接着材含む)
5	オムニバス (ラミネートベニア、知覚過敏 漂白など)
6	到達度試験の解答と解説 動画 (漂白)
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯内療法学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	熊澤 真理子	教員区分	一般教員

教科書	「最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）	
参考書	授業プリントを適宜配布する。	
成績評価	定期試験にて評価する。	
留意事項	毎回の授業に教科書を必ず持参すること。	

科目の目標	歯内療法学を学び、知識を持って診療補助の能力を修得する。
授業概要	歯内疾患の症状や治療法の概要を学習する。 歯内療法に使用する多くの治療用器材・器具を学習する。 歯内療法の診療補助をスムーズに行うことができる。

日程

回数	授業内容
1	1章 歯内療法 概要
2	2章 歯髄保存療法
3	3章 歯髄の除去療法
4	4章 根管治療, 根管充填
5	5章 外科的歯内療法 6章 歯の外傷
6	7章 歯内療法における安全対策 8章 歯内療法における歯科衛生士の役割
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科補綴学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	南澤 直子	教員区分	一般教員

教科書	「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特になし。授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	歯科補綴は保存修復と並んで一般歯科診療において重要な位置を占める分野です。各自意欲を持って積極的に授業に臨んでください。

科目の目標	歯科補綴の概要を理解する。 歯科補綴治療における歯科衛生士の役割を理解する。
授業概要	歯科補綴の目的、分類、臨床について包括的に理解し、その知識に基づいて、実際の臨床の場で歯科衛生士が果たすべき役割を学んでいく。

日程

回数	授業内容
1	補綴歯科治療に関する基礎知識
2	補綴歯科治療の実際（1）検査・診断、クラウン・ブリッジ治療
3	補綴歯科治療の実際（2）有床義歯治療、インプラント治療
4	補綴歯科治療に用いられる器材、補綴歯科治療における歯科技工
5	補綴歯科治療における歯科衛生士の役割（1）検査・診断時の業務、治療時の業務
6	補綴歯科治療における歯科衛生士の役割（2）患者指導、器材の管理
7	定期試験
8	定期試験の解答解説

科 目	小児歯科学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	三輪 全三	教員区分	一般教員

教科書	「小児歯科学」新谷 誠康 編集（永末書店）
参考書	「ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策 ④」（医歯薬出版）
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	授業内容について教科書で予習・復習をすること。 毎回、授業の範囲で確認テストを行う。

科目の目標	小児歯科学の概要を理解し、歯科衛生士として小児歯科臨床に必要な知識・技術・態度を修得する。
授業概要	小児歯科学について学習する。写真と図を見ながら実践的な手技を理解する。

日程

回数	授業内容
1	1. 小児歯科学とは 2. 心身の発育 3. 頭蓋と顎の成長発育
2	4. 歯の発育と異常 5. 歯列および咬合の発育と異常 6. 歯科口腔保健管理
3	7. 小児への歯科的対応 8. 小児の歯科疾患 9. 小児歯科診療の基本 10. 診察・検査
4	11. 小児歯科における局所麻酔法 12. 小児の歯冠修復
5	13. 歯内療法 14. 外科的処置 15. 外傷の処置
6	16. 咬合誘導 17. う蝕の予防処置と進行抑制 18. リコール（定期健診）
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科矯正学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	小堀 理恵	教員区分	一般教員

教科書	「歯科矯正学」新・歯科衛生士教育マニュアル 監修（クインテッセンス出版）
参考書	配布プリント
成績評価	定期試験により評価する。
留意事項	矯正治療の概要から成り立ちを理解し、定義や知識と概念、チーム歯科医療の一員として歯科衛生士の役割を理解すること。

科目の目標	矯正歯科治療での歯科衛生士の役割を説明できる。不正咬合の種類や治療に必要な器具・機材を説明できる。
授業概要	矯正歯科治療に関する基礎および臨床における知識を習得する。

日程

回数	授業内容
1	矯正歯科治療の概要・基礎知識
2	矯正歯科診断・矯正歯科治療と力
3	矯正装置
4	矯正歯科治療の実際
5	矯正歯科臨床における衛生士の役割・口腔筋機能療法
6	矯正歯科器材、資料、文書の管理・これまでのまとめ
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科予防処置Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	清尾 奈津子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会監修（医歯薬出版） 「歯周病学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会監修（医歯薬出版）
参考書	適宜指定する。
成績評価	定期試験および確認テスト（第5回目講義）を含め評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生業務を遂行する際に必要不可欠な器具を学ぶ授業となるので欠席しないこと。 ・実際に器具に触れるため爪を切っておくこと。 ・予習・復習を必ず行なうこと。

科目の目標	各種スクレーパー、それら器具の特徴・種類・使用目的・使用方法を説明できる。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生的で安全、かつ適切に器具を使用できるように知識を習得する。 ・歯周病の予防や治療に関する豊富な知識を習得する。今後、歯科衛生士としての的確な判断ができ、正確な技術を身に付け、実践できるようその礎を築く。

日程

回数	授業内容
1	小窩裂溝填塞法について
2	手用スクレーパーの形態と用途①
3	手用スクレーパーの形態と用途②
4	パワー（機械的）スクレーパーの特徴と用途
5	PTCとPMTC / 歯面清掃器 / 確認テスト
6	まとめ
7	定期試験
8	定期試験の解答・解説 / キュレットスクレーパーの選択確認テスト

科 目	歯科予防処置実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	64
		履修年次	1学年
		実施学期	2・3学期
教員名	久間 雅代	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	適宜指示あり。
成績評価	実技試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士に不可欠な器具の授業となるので欠席しないこと。 ・身だしなみをしっかり整え、忘れ物がないようにし、医療従事者になるという自覚を持って授業に臨むこと。 ・実技試験は3学期に実施する。

科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯石除去の操作の基礎を習得する。 ・相互実習を行う中で、患者を思いやる心や協力する態度を養い、各自の技術の向上に努める。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科予防処置で使用する器具・機械を衛生的で安全、かつ適切に使用できるよう、マネキン実習・相互実習を通して習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション、実習室の使用方法
2	歯石除去のための器具・機械①
3	歯石除去のための器具・機械②
4	歯石除去のための器具・機械③
5	歯石除去のための器具・機械④
6	歯石除去のための器具・機械⑤
7	歯石除去のための器具・機械⑥
8	歯石除去のための器具・機械⑦
9	歯石除去のための器具・機械⑧
10	歯石除去のための器具・機械⑨
11	歯石除去のための器具・機械・総復習①
12	歯石除去のための器具・機械・総復習②
13	歯石除去のための器具・機械・総復習③

14	実技試験
15	実技試験
16	実技試験の解答解説

科 目	臨床検査法	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	守谷 友二郎	教員区分	一般教員

教科書	「臨床検査」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	教科書を中心に予習、復習を行い、国家試験合格のための基礎力をつけること。

科目の目標	歯科衛生士にとって必要な臨床検査について習得する。
授業概要	教科書を中心に解説する。プリントを使用。

日程

回数	授業内容
1	臨床検査とは・生体検査（体温検査・脈拍検査・血圧検査）
2	生体検査（心機能検査・肺機能検査・筋電図検査・脳波検査・血中酸素濃度検査）
3	検体検査（血液を用いる検査・感染症検査・病理検査）前半
4	検体検査（血液を用いる検査・感染症検査・病理検査）後半
5	口腔領域の臨床検査／摂食嚥下関連の検査
6	主な疾患・病態別検査値の捉え方と総まとめ
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	総合講義	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	猪俣 理恵 ・ 関 奈々子	教員区分	一般教員

教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	休まず出席すること。期限内に提出物を提出するよう心掛ける。

科目の目標	臨床実習について理解し、歯科衛生士として必要な知識・態度を習得する。
授業概要	来年度の臨床実習に向け必要知識・態度について学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	臨床実習に向けての学習①
2	臨床実習に向けての学習②
3	臨床実習に向けての学習③
4	臨床実習に向けての学習④
5	臨床実習に向けての学習⑤
6	まとめと総復習
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	医療人間科学Ⅱ	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	菅野 眞由美	教員区分	一般教員

教科書	「歯科英語」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
参考書	「ひとこと英会話 in the Dental Clinic」(デンタルハイジーン)
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	英単語並びに実践英会話をしっかりと声に出し発音する事に留意して授業に臨むこと。

科目の目標	実践的な歯科診療の場面に沿った英会話並びに専門的英単語を習得する。
授業概要	上記の英会話、専門的英単語を紹介し、授業にて実際に発音し、会話の練習をしていく。

日程

回数	授業内容
1	英単語の学習 (歯の名称、部位の名称、口腔解剖用語、歯科医療に携わる者)
2	英単語の小テスト、英単語の学習 (歯科学)、ひとこと英会話 (電話で予約を受け付けよう)
3	英単語の小テスト、英単語の学習 (検査)、ひとこと英会話 (問診)
4	英単語小テスト、英単語の学習 (痛みの種類)、ひとこと英会話 (スケーリング)
5	英単語小テスト、ひとこと英会話 (薬剤、内服薬)
6	英単語小テスト、ひとこと英会話 (ブラッシング)
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	医療人間科学Ⅲ	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	菅野 眞由美	教員区分	一般教員

教科書	「歯科英語」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
参考書	「ひとこと英会話 in the Dental Clinic」(デンタルハイジーン)
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	英単語並びに実践英会話をしっかりと声に出し発音する事に留意して授業に臨むこと。

科目の目標	実践的な歯科診療の場面に沿った英会話並びに専門的英単語を習得する。
授業概要	上記の英会話、専門的英単語を紹介し、授業にて実際に発音し、会話の練習をしていく。

日程

回数	授業内容
1	英単語の学習 (全身疾患)、ひとこと英会話 (術後、診療後の指示)
2	英単語小テスト、英単語の学習 (歯科疾患)、ひとこと英会話 (シーラント)
3	英単語小テスト、英単語の学習 (歯科治療)、ひとこと英会話 (印象採得)
4	英単語小テスト、ひとこと英会話 (X線写真)
5	英単語小テスト、ひとこと英会話 (受付での会話、フレーズ集)
6	英単語小テスト、ひとこと英会話 (チェアサイドでの会話、フレーズ集)
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	薬理学（歯科薬理学）	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	久保山 昇	教員区分	一般教員

教科書	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯科衛生士国家試験問題集」（医歯薬出版）
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	講義で理解不十分なところは、授業終了後に質問に回答する。

科目の目標	医薬品の薬理作用や体内動態、副作用や毒性など基本的な事項と、歯科診療で繁用される医薬品について正しい知識を身につける。
授業概要	薬理学の基本的な知識を身につけると共に、歯科臨床で用いられる薬物の特徴や副作用について必要な事項について学習する。

日程

回数	授業内容
1	総論①：薬物の作用（2p～10p）
2	総論②：薬物動態及び薬物動態のパラメーター（11p～21p）
3	総論③：薬物の適用方法（22p～36p）
4	総論④：薬物の副作用・有害作用及び服薬指導（37p～50p）
5	総論⑤：薬物と医薬品（51p～64p）
6	末梢神経系に作用する薬物（73p～80p）
7	中枢神経系に作用すると薬物（81p～92p）
8	環器系に作用する薬物及び腎臓・呼吸器系に作用する薬物（93p～108p）
9	消化器系に作用する薬物及び血液に作用する薬物（109p～117p）
10	代謝性疾患治療薬及び炎症と薬（129p～143p）
11	痛みと薬、及び局所麻酔薬（144p～158p）
12	抗感染症薬・消毒に使用する薬（159p～180p）
13	う蝕予防薬及び歯内療法薬（181p～190p）
14	歯周疾患治療薬及び顎・口腔粘膜疾患と薬（191p～203p）
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	口腔外科学・歯科麻酔学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	田中 隆博	教員区分	一般教員

教科書	「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業の予習復習を行い、休まず出席すること。

科目の目標	口腔外科疾患の種類・特徴等が分類できること。各種麻酔法・救急蘇生法を含め、歯科領域における全身管理や偶発症等への対応を理解すること。
授業概要	歯科衛生士にとって必要な口腔外科学（歯科麻酔学含む）について学習する。

日程

回数	授業内容
1	口腔外科学の概要 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患
2	顎・口腔領域の嚢胞性疾患
3	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患、唾液腺疾患
4	顎・口腔領域の損傷および機能障害
5	顎・口腔領域の先天異常と発育異常
6	口腔領域の神経疾患 口腔粘膜の病変①
7	口腔粘膜の病変②
8	口腔外科診療の実際① 外科的歯内療法
9	口腔外科診療の実際② 歯周外科処置
10	口腔外科診療の実際③ 消炎処置、抜歯術
11	歯科治療における歯科麻酔と患者管理：麻酔に必要な解剖学 局所麻酔①
12	歯科治療における歯科麻酔と患者管理：局所麻酔② 精神鎮静法
13	歯科治療における歯科麻酔と患者管理：全身麻酔 救急蘇生法
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	高齢者歯科学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	櫻井 薫	教員区分	一般教員

教科書	「高齢者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	資料の配布、「高齢者歯科学 第3版」（永末書店）
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	安易な遅刻欠席はしないよう心がけ、復習をしっかりと行い授業に臨むこと。

科目の目標	高齢者に対する歯科衛生士業務を適切に実施するために必要な知識を習得することを目的に、我が国の高齢者を取り巻く状況、加齢変化・老化、高齢者の身体・精神・社会的特徴、主要な疾病と歯科治療時の対応法および高齢者の歯科診療の特徴について学ぶ。また、高齢者の口腔機能の評価法、口腔機能の維持・向上、口腔機能管理および口腔機能のリハビリテーションについても学習する。
授業概要	高齢者歯科医療を安全かつ円滑に行うために必要となる歯科衛生士の役割を理解し、それに関する基礎知識を学習する。

日程

回数	授業内容
1	高齢者を取りまく社会と環境—社会環境
2	高齢者を取りまく社会と環境—社会保障
3	加齢による全身の変化—加齢と老化、組織器官の変化、身体機能の変化
4	加齢による精神・心理的機能の変化、口腔領域の変化
5	高齢者における口腔疾患—う蝕、歯周疾患、口腔粘膜疾患
6	高齢者における口腔疾患—口腔乾燥、口臭、その他の疾患
7	高齢者の状態の把握—医療情報、全身疾患の評価と対応
8	高齢者の状態の把握—特別な配慮を必要とする患者への対応
9	高齢者歯科医療の場—通院困難者、往診と訪問診療
10	口腔衛生管理—口腔衛生管理の視点から見た高齢者の口腔内環境、口腔環境の評価法
11	口腔衛生管理—口腔環境の管理の実際
12	摂食嚥下障害とリハビリテーション—摂食嚥下機能のメカニズム
13	摂食嚥下障害とリハビリテーション—摂食嚥下機能の評価・診断、摂食嚥下障害への対応
14	介護予防、施設高齢者における「口腔ケアマネジメントの実際」、在宅における口腔健康管理、栄養指導・食支援
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	歯科放射線学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	村上 昌隆	教員区分	一般教員

教科書	「歯科放射線」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	授業プリント適宜配布する。
成績評価	定期試験により評価する。
留意事項	患者に対する放射線防護については常に考えること。

科目の目標	臨床実習中に毎日取り扱いをする口内法撮影法の正しい位置付け、パノラマエックス線撮影法の正しい位置付けの習得に留意を置く。
授業概要	撮影後の画像について、良かった原因、悪かった原因について評価ができるようになる。

日程

回数	授業内容
1	歯科におけるエックス線検査①
2	歯科におけるエックス線検査②
3	エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割①
4	エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割②
5	歯科医療と放射線①
6	歯科医療と放射線② まとめ
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科予防処置Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	久間 雅代	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	適宜、授業プリントを配布する。
成績評価	定期試験及び小テストで評価する。
留意事項	体調管理に気を配り、休まず出席すること。

科目の目標	専門基礎分野の知識も踏まえ、歯科予防処置の方法、応用を考えることができる。 歯科衛生士に不可欠な器具のメンテナンスについて習得する。
授業概要	今まで学習した講義や実習と関連づけながら歯科予防処置について学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	シャープニング①
2	シャープニング②
3	小窩裂溝填塞法
4	う蝕活動性試験・歯周病に関連する検査①
5	う蝕活動性試験・歯周病に関連する検査②
6	う蝕活動性試験・歯周病に関連する検査③
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科保健指導Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	大谷 悦世	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	必要に応じ指示する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	歯科衛生士に不可欠な授業となるので欠席しないこと。 医療従事者になるという自覚を持って授業に臨むこと。

科目の目標	様々な対象者の特性を知り、対象者に寄り添った歯科保健指導を行うための知識を身につける。
授業概要	歯科保健指導を実施するために必要な知識を習得する。

日程

回 数	授業内容
1	対象者別の歯科衛生介入①
2	対象者別の歯科衛生介入②
3	対象者別の歯科衛生介入③
4	対象者別の歯科衛生介入④
5	対象者別の歯科衛生介入⑤
6	対象者別の歯科衛生介入⑥
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科診療補助Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	猪俣 理恵	教員区分	一般教員

教科書	「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリートBOOK 共同動作編 Part1」（一世出版）
成績評価	小テスト、定期試験を総合して評価する。
留意事項	歯科診療補助実習と併せて進めていくため、総合的に学習すること。 1年次に学習した内容をよく復習して臨むこと。

科目の目標	各診療科目において使用する、歯科材料・歯科器具の用途を理解、習熟し、臨床の場で対応できる知識を身につける。
授業概要	専門的な歯科診療補助のために基礎知識を習得する。

日程

回数	授業内容
1	歯科診療室における基礎知識
2	歯科診療で扱う歯科材料①
3	歯科診療で扱う歯科材料②
4	治療時の診療補助①
5	治療時の診療補助②
6	治療時の診療補助③
7	治療時の診療補助④
8	治療時の診療補助⑤
9	治療時の診療補助⑥
10	治療時の診療補助⑦
11	治療時の診療補助まとめ
12	治療時の診療補助⑧
13	治療時の診療補助⑨
14	周術期・歯科訪問診療における対応
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨地実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	12
		時 間 数	540
		履修年次	2学年
		実施学期	1・2・3学 期
教員名	全教員	教員区分	実務教員

教科書	配布済みの全教本
参考書	「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリートBOOK 共同動作編 Part1」（一世出版）
成績評価	出席、提出物、指導者評価表により評価する。
留意事項	提出物の期限は厳守する。指導教員の指示をよく聞き、従うこと。

科目の目標	症例に合わせた診療補助・口腔保健管理を実践するために、器具・薬剤・術式・指導に対応できる知識・技術・態度を修得する。歯科医療施設について理解を深め、歯科衛生士に求められる役割を理解する。
授業概要	指定された地域の一般歯科医院や施設にて、実習を行う。 実践実習、実習記録の作成を実践できる能力を身につける。

実務経験	歯科医師、歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

別マニュアルに定める

科 目	総合講義	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	歯科衛生学科教員	教員区分	一般教員

教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	休まず出席すること。

科目の目標	臨床実習について理解し、歯科衛生士として必要な知識・態度を習得する。
授業概要	臨床実習に向け必要知識・態度について学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	臨床実習に向けての学習①
2	臨床実習に向けての学習②
3	臨床実習に向けての学習③
4	臨床実習に向けての学習④
5	臨床実習に向けての学習⑤
6	臨床実習に向けての学習⑥
7	臨床実習に向けての学習⑦
8	臨床実習に向けての学習⑧
9	臨床実習に向けての学習⑨
10	臨床実習に向けての学習⑩
11	臨床実習に向けての学習⑪
12	臨床実習に向けての学習⑫
13	臨床実習に向けての学習⑬
14	臨床実習に向けての学習⑭
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	衛生統計学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	2学期
教員名	渡部 亜希	教員区分	一般教員

教科書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	授業プリントは適宜配布・指示する。
成績評価	定期試験および小テストにて評価する。
留意事項	講義内容のメモを取るように心がけ、また正しい計算ができるようになること。

科目の目標	高度な医療を提供するために、膨大な情報の中から必要な情報を取捨選択し、活用する方法を身につける。
授業概要	歯科衛生士として得た情報を口腔内の疾病予防、健康増進に活用する方法を学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	衛生統計学①
2	衛生統計学②
3	衛生統計学③
4	衛生統計学④
5	衛生統計学⑤
6	歯科疾患の指標① 小テスト
7	小テスト解説
8	歯科疾患の指標②
9	歯科疾患の指標③
10	歯科疾患の指標④
11	歯科疾患の指標⑤
12	歯科保健統計
13	歯科の疫学
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	歯科予防処置実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習	実習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	64
		履修年次	2学年
		実施学期	2学期
教員名	青木 可奈子	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯周病学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	実技試験、出席、身だしなみ、授業態度、提出物を総合的に評価する。
留意事項	歯科衛生士に不可欠な器具の授業となるので欠席しないこと。 身だしなみをしっかり整え、忘れ物がないようにし、医療従事者になるという自覚を持って授業に臨むこと。

科目の目標	手用スケーラー、超音波スケーラー、エアスケーラーの正しい「知識・用途・技能」を身につける。部位に適したキュレットスケーラーを選択することができる。
授業概要	歯科予防処置で使用する器具・機械を衛生的で安全、かつ適切に使用できるよう、マネキン実習・相互実習を通して習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1・2	オリエンテーション 手用スケーラー①
3・4	手用スケーラー② シックル①
5・6	手用スケーラー③ シックル②
7・8	手用スケーラー④ シックル③
9・10	手用スケーラー⑤ キュレット①
11・12	手用スケーラー⑥ キュレット②
13・14	手用スケーラー⑦ キュレット③ 歯面研磨のための器具・機械①
15・16	手用スケーラー⑧ キュレット④ 歯面研磨のための器具・機械②
17・18	手用スケーラー⑨ キュレット⑤ 歯面研磨のための器具・機械③
19・20	手用スケーラー⑩ キュレット⑥ 歯面研磨のための器具・機械④
21・22	超音波スケーラー・エアスケーラー① 歯面研磨のための器具・機械⑤
23・24	超音波スケーラー・エアスケーラー② 歯面研磨のための器具・機械⑥
25・26	実技試験前の総復習 小窩裂溝充填塞法 歯面研磨のための器具・機械⑦
27・28	実技試験

29・30	実技試験の解答と解説 フッ化物歯面塗布法 歯面研磨のための器具・機械⑧
31・32	総復習 超音波スケーラー・エアスケーラー③ 歯面研磨のための器具・機械⑨

科 目	歯科保健指導実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	2学期
教員名	枝川 祥子 ・ 内藤 美生	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	適宜指示あり。
成績評価	実技試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	身だしなみを整え、忘れ物をせず、医療従事者になるという自覚を持ち授業に臨むこと。

科目の目標	対象者に合わせた歯科衛生介入を想定し、それぞれに適した歯科保健指導を行う為の実践力を身につけ保健、医療、福祉に関わる意義と歯科衛生士の役割を理解する。
授業概要	個人媒体を作製し、対象者の年齢、環境に合わせた保健指導について学ぶ。 臨床の場において対応できる基本的支援技術を学ぶ。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション、健康教育について
2	媒体作成①
3	歯科衛生過程演習
4	媒体作成②
5	基本的支援技術①
6	基本的支援技術②
7	基本的支援技術③
8	基本的支援技術④
9	基本的支援技術⑤
10	基本的支援技術⑥
11	媒体作成③
12	媒体作成④
13	基本的支援技術⑦
14	基本的支援技術⑧
15	実技試験
16	実技試験の解答と解説

科 目	歯科診療補助実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	2学期
教員名	畑山 範子	教員区分	実務教員

教科書	「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯科補綴」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	実技試験、出席、身だしなみ、授業態度、提出物を総合的に評価する。
留意事項	歯科診療補助Ⅱ、歯科診療補助Ⅲ、歯科補綴学、保存修復学で学習した内容をよく復習・予習して臨むこと。

科目の目標	歯科診療で使用される器具器材等について、実践を通してより深く理解する。実際に臨床実習で対応できる基本知識、実習態度及び基本的な手技を身につける。
授業概要	マネキンによる実技実習を行う。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に臨床の応用力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1	歯科材料の取り扱い①
2	歯科材料の取り扱い②
3	歯科材料の取り扱い③
4	歯科診療における術前準備①
5	歯科材料の取り扱い④
6	歯科材料の取り扱い⑤
7	歯科材料の取り扱い⑥
8	歯科材料の取り扱い⑦
9	歯科材料の取り扱い⑧
10	歯科診療における術前準備②
11	歯科材料の取り扱い⑨
12	歯科材料の取り扱い⑩
13	歯科材料の取り扱い⑪

14	歯科診療における術前準備③
15	実技試験
16	解答解説

科 目	臨地実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	12
		時間数	540
		履修年次	2学年
		実施学期	1・2・3学期
教員名	全教員	教員区分	実務教員

教科書	配布済みの全教本
参考書	「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリートBOOK 共同動作編 Part1」(一世出版)
成績評価	出席、提出物、指導者評価表により評価する。
留意事項	提出物の期限は厳守する。指導教員の指示をよく聞き、従うこと。

科目の目標	症例に合わせた診療補助・口腔保健管理を実践するために、器具・薬剤・術式・指導に対応できる知識・技術・態度を修得する。歯科医療施設について理解を深め、歯科衛生士に求められる役割を理解する。
授業概要	指定された地域の一般歯科医院や施設にて、実習を行う。 実践実習、実習記録の作成を実践できる能力を身につける。

実務経験	歯科医師、歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

別マニュアルに定める

科 目	障がい者歯科学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	3学期
教員名	櫻井 薫	教員区分	一般教員

教科書	「障害者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	知識や技術のみならず、人としての「心」がより一層大切になる分野です。各自、意欲を持って積極的に授業に臨んでください。

科目の目標	歯科衛生士として様々な障害者の歯科的問題に適切に対応するために、障害者歯科学の基本的知識を習得する。
授業概要	障害者の特徴、周辺環境、関わり方などについて包括的に理解し、その知識に基づいて、実際の臨床の場で歯科衛生士が果たすべき役割を学んでいく。

日程

回数	授業内容
1	障害の概念、歯科医療で特別な支援が必要な疾患（精神発達・心理的発達と行動障害）
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患（運動障害、感覚障害、音声言語障害、精神および行動の障害）
3	障害者の歯科医療と行動調整
4	障害者に対する健康支援と口腔衛生管理、リスク評価と安全管理
5	摂食嚥下リハビリテーション
6	地域における障害者歯科
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	臨地実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	12
		時間数	540
		履修年次	2学年
		実施学期	1・2・3 学期
教員名	全教員	教員区分	実務教員

教科書	配布済みの全教本
参考書	「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリートBOOK 共同動作編Part1」（一世出版）
成績評価	出席、提出物、指導者評価表により評価する。
留意事項	提出物の期限は厳守する。指導教員の指示をよく聞き、従うこと。

科目の目標	症例に合わせた診療補助・口腔保健管理を実践するために、器具・薬剤・術式・指導に対応できる知識・技術・態度を修得する。歯科医療施設について理解を深め、歯科衛生士に求められる役割を理解する。
授業概要	指定された地域の一般歯科医院や施設にて、実習を行う。 実践実習、実習記録の作成を実践できる能力を身につける。

実務経験	歯科医師、歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

別マニュアルに定める

科 目	医療人間科学Ⅳ	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	1学期
教員名	川島 貴重・歯科衛生学科教員	教員区分	一般教員

教科書	なし（授業時にプリントを配布する。）
参考書	授業プリント、および適宜案内する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	遅刻、欠席をしないこと。

科目の目標	現在の社会で役に立てる医療人になるために必要な知識を習得する。
授業概要	様々な分野の講師による講義で、現在の社会、医療の場に必要な知識を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	医療人として社会で活躍するために必要となる知識①
2	医療人として社会で活躍するために必要となる知識②
3	医療人として社会で活躍するために必要となる知識③
4	医療人として社会で活躍するために必要となる知識④
5	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑤
6	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑥
7	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑦
8	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑧
9	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑨
10	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑩
11	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑪
12	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑫
13	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑬
14	まとめと総復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	歯科介護学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	1 学期
教 員 名	深澤 佳世	教員区分	一般教員

教科書	「歯科衛生士のための 看護学大意 第3版」(医歯薬出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	休まず出席すること。

科目の目標	介護の場に必要知識を身につける。
授業概要	多職種との連携の意義を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	地域医療・地域保健における他職種との連携①
2	歯科衛生士に必要な看護の知識①
3	歯科衛生士に必要な看護の知識②
4	歯科衛生士に必要な介護現場の基礎知識
5	患者とのコミュニケーション、記録作成の基礎知識
6	介護現場での口腔ケアの目的、患者状態別の注意点
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科衛生士概論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	3学年
		実施学期	1学期
教員名	久間 雅代	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯周病学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「保健生態学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） その他適宜必要となる資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	遅刻、欠席をしないこと。

科目の目標	今まで学習してきた歯科予防処置を基礎から復習し、様々な知識を関連付け総合的に理解する。
授業概要	歯科衛生士としての知識と理解を深め、応用力をつけていく。

日程

回数	授業内容
1	各論総復習①
2	各論総復習②
3	各論総復習③
4	各論総復習④
5	各論総復習⑤
6	各論総復習⑥
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	摂食嚥下リハビリテーション学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	3学年
		実施学期	1学期
教員名	山口 絢香	教員区分	一般教員

教科書	「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション」 公益社団法人 日本歯科衛生士会 監修（医歯薬出版）
参考書	講師作成の資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	口腔の解剖学・生理学的な知識を復習しておくこと。

科目の目標	歯科衛生士と摂食・嚥下の関わりについての理解を深める。
授業概要	摂食・嚥下リハビリテーションに関する基礎的知識・技術を学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	総論/口腔・咽頭・喉頭の解剖と生理/摂食嚥下機能の発達と食育
2	小児・成人・高齢者の摂食嚥下障害と、歯科衛生士によるケア
3	歯科衛生士の行う口腔ケアの効果と実際
4	摂食嚥下障害における訓練
5	摂食嚥下障害に対する食指導・食支援
6	合併症等のリスクマネジメントとチーム医療
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科保健指導実習Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	1学期
教員名	内藤 美生	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）適宜プリントを配布する。
成績評価	実技試験、出席、身だしなみ、提出物を総合的に評価する。
留意事項	体調管理に留意し、遅刻・欠席をしないように努めること。提出物の期限を守ること。

科目の目標	集団への健康教育の実施の際、対象者に合った内容を考えられる。また、集団指導を実施するにあたり安全面に十分に配慮した計画を立案できる。
授業概要	小学校で実施可能な健康教育の指導案を作成し、実践に向けた準備を行う。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1	健康教育の進め方
2	集団に対する健康教育指導①
3	集団に対する健康教育指導②
4	集団に対する健康教育指導③
5	集団に対する健康教育指導④
6	集団に対する健康教育指導⑤
7	集団に対する健康教育指導⑥
8	集団に対する健康教育指導⑦
9	集団に対する健康教育指導⑧
10	集団に対する健康教育指導⑨
11	集団に対する健康教育指導⑩
12	集団に対する健康教育指導⑪
13	集団に対する健康教育指導⑫
14	集団に対する健康教育指導⑬
15	実技試験
16	実技試験の解答と解説・総復習

科 目	総合科目	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	10
		時間数	160
		履修年次	3学年
		実施学期	1学期
教員名	竹之内 茜/大谷 悦世/歯科衛生学科教員	教員区分	一般教員

教科書	<p>「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリートBOOK」木下淳博監修（一世出版）</p> <p>「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯周病学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「小児歯科」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「人体の構造と機能2 栄養と代謝」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯科矯正学」アイン・歯科衛生士教育マニュアル 監修（クインテッセンス出版）</p> <p>「保健情報統計学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「保健生態学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯科衛生学総論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p>
参考書	授業資料を適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	歯科衛生士になるための知識の定着を確認する大切な時間である。

科目の目標	多岐にわたる科目を総合してポイントを把握する。
授業概要	1～3年で履修した内容の総復習。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	オリエンテーション
3	保存修復学 総論1
4	保存修復学 総論2
5	歯科診療補助（保存修復学） 総論1
6	歯科診療補助（保存修復学） 総論2
7	保存修復学 総論3

8	保存修復学 総論 4
9	総まとめ
10	総まとめ
11	歯内療法学 総論 1
12	歯内療法学 総論 2
13	歯科材料学 総論 1
14	歯科材料学 総論 2
15	歯科診療補助 (歯内療法学) 総論 1
16	歯科診療補助 (歯内療法学) 総論 2
17	生理学 総論 1
18	生理学 総論 2
19	歯内療法学 総論 3
20	歯内療法学 総論 4
21	補綴学 総論 1
22	補綴学 総論 2
23	歯科材料学 総論 3
24	歯科材料学 総論 4
25	歯科診療補助 (補綴学) 総論 1
26	歯科診療補助 (補綴学) 総論 2
27	口腔生理学 総論 1
28	口腔生理学 総論 2
29	補綴学 総論 3
30	補綴学 総論 4
31	歯周病学 総論 1
32	歯周病学 総論 2
33	組織発生学 総論 1
34	組織発生学 総論 2
35	歯周病学 総論 3
36	歯周病学 総論 4
37	歯周病学 総論 5
38	組織発生学 総論 3
39	口腔外科学 総論 1
40	口腔外科学 総論 2
41	歯科診療補助 (口腔外科) 総論 1
42	歯科診療補助 (口腔外科) 総論 2
43	口腔外科学 総論 3

4 4	口腔外科学 総論 4
4 5	歯科矯正学 総論 1
4 6	歯科矯正学 総論 2
4 7	歯科保健指導 総論 1
4 8	歯科保健指導 総論 2
4 9	歯科材料学 総論 5
5 0	歯科材料学 総論 6
5 1	歯科材料学 総論 7
5 2	歯科矯正学 総論 3
5 3	歯科矯正学 総論 4
5 4	小児歯科学 総論 1
5 5	小児歯科学 総論 2
5 6	歯科保健指導 総論 3
5 7	歯科保健指導 総論 4
5 8	解剖学 総論 1
5 9	解剖学 総論 2
6 0	小児歯科学 総論 3
6 1	小児歯科学 総論 4
6 2	口腔衛生学 総論 1
6 3	口腔衛生学 総論 2
6 4	歯科衛生士概論 総論 1
6 5	歯科衛生士概論 総論 2
6 6	解剖学 総論 3
6 7	解剖学 総論 4
6 8	歯科予防処置 総論 1
6 9	歯科予防処置 総論 2
7 0	口腔衛生学 総論 3
7 1	口腔衛生学 総論 4
7 2	栄養指導 総論 1
7 3	栄養指導 総論 2
7 4	歯科予防処置 総論 3
7 5	歯科予防処置 総論 4
7 6	衛生統計学 総論 1
7 7	栄養指導 総論 3
7 8	歯科予防処置 総論 5
7 9	定期試験

科 目	先端歯科医療学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教員名	片岡 有 ・ 川島 貴重	教員区分	一般教員

教科書	教科書は適宜指示する。
参考書	授業プリントは適宜配布・指示する。
成績評価	出席状況・授業態度評価・定期試験を総合して評価する。
留意事項	PC・スマートフォン・タブレット等一般的なホームページが閲覧できるインターネット接続可能機器を持参すること。

科目の目標	歯科医療が常に進歩し続けていることを知り、生涯学習が大事であることを認識する。本科目では臨床データに基づいた歯科医療のデジタル化に主眼を置き歯科医療を考える。
授業概要	歯科医療は、従来より保存治療および補綴治療が主体であった。しかし、現在は小児のう蝕は減少傾向にあり、さらに超高齢社会の到来により、歯科医療の果たす役割は大きく変化している。また、世の中のデジタル化が進み、歯科医療も同様に変革の時期である。このような中で、従前の教科書を基本とした教育や実習のみでは、生涯にわたり医療界で活躍できる歯科衛生士を教育することができない。歯科衛生士国家試験をゴールとすることなく、常に新しい知識を取り入れて実践する積極的な歯科衛生士になるための講義を展開する。

日程

回数	授業内容
1	概 論
2	情報リテラシー
3	口腔インプラント 1
4	口腔インプラント 2
5	歯科診療所の実際 1
6	歯科診療所の実際 2
7	デジタルデンティストリー 1
8	デジタルデンティストリー 2
9	デジタルデンティストリー 3
10	デジタルデンティストリー 4
11	口腔内サプリメント 1
12	口腔内サプリメント 2
13	オーラルフレイルと口腔機能低下症 1
14	オーラルフレイルと口腔機能低下症 2
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	保険請求事務	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時間数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	時々輪 智恵子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科保険請求マニュアル 令和2年版 歯の知識と請求の実務」(医歯薬出版) 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 歯科衛生士と法律・制度 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験・出席・提出物を総合して評価する。
留意事項	電卓と授業で配布されたプリントを整理するファイル(個人で用意)は、毎回用意してください。

科目の目標	医療保障制度の体系を理解し、医療保険制度の歯科医療分野における保険治療の算定を学ぶ。カルテから治療内容を保険病名に結び付け、保険点数化してレセプト作成ができる知識を習得する。
授業概要	歯科医療保険制度を理解し、歯科治療内容を点数化する作業をしながらレセプト作成を行う。毎回の授業において教科書の歯科保険請求マニュアルを理解し例題を解きながら授業を進める。

日程

回 数	授業内容
1	医療保障制度の概要と医療保険について
2	初診・再診・指導
3	C処置・P処置
4	根管治療・歯冠補綴
5	手術・欠損補綴(ブリッジ、義歯)
6	総まとめ(総合問題)
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説 レセプト総括

科 目	歯科予防処置実習Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教員名	内藤 美生	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	実技試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	欠席・遅刻せず、正しい身だしなみで出席する。清潔・不潔の区別と安全に注意する。

科目の目標	診療室内の患者状況を想定し患者情報の守秘義務・感染対策・安全管理に留意した歯科予防処置を行う。安全に歯科予防処置を行うために、状況を判断し正しく機械操作を行う。
授業概要	臨床実習での経験を発展させ、歯科衛生士としての歯科予防処置実践能力を高める。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	歯科予防処置の実践①
3	歯科予防処置の実践②
4	歯科予防処置の実践③
5	歯科予防処置の実践④
6	歯科予防処置の実践⑤
7	歯科予防処置の実践⑥
8	歯科予防処置の実践⑦
9	歯科予防処置の実践⑧
10	歯科予防処置の実践⑨
11	歯科予防処置の実践⑩
12	歯科予防処置の実践⑪
13	歯科予防処置の実践⑫
14	総復習
15	実技試験
16	実技試験の解答と解説

科 目	歯科診療補助実習Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	内藤 美生	教員区分	実務教員

教科書	「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	実技試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	欠席・遅刻せず、正しい身だしなみで出席する。清潔・不潔の区別と安全に注意する。

科目の目標	診療室内の患者状況を想定し患者情報の守秘義務・感染対策・安全管理に留意した診療補助を行う。診療の補助としての指導及び処置といった業務の意味を理解し、実践できる。
授業概要	臨床実習での経験を発展させ、歯科衛生士としての歯科診療補助実践能力を高める。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	診療補助としての指導と処置①
3	診療補助としての指導と処置②
4	診療補助としての指導と処置③
5	診療補助としての指導と処置④
6	診療補助としての指導と処置⑤
7	診療補助としての指導と処置⑥
8	診療補助としての指導と処置⑦
9	診療補助としての指導と処置⑧
10	診療補助としての指導と処置⑨
11	診療補助としての指導と処置⑩
12	診療補助としての指導と処置⑪
13	診療補助としての指導と処置⑫
14	総復習
15	実技試験
16	実技試験の解答と解説

科 目	臨地実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	8
		時 間 数	360
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教員名	全教員	教員区分	実務教員

教科書	配布済みの全教本
参考書	特に指定しない。
成績評価	出席、実習記録、指導者評価表により評価する。
留意事項	遅刻欠席せず実習に臨む。守秘義務を遵守する。実習記録は不備なく作成し、訂正も最後まで完了させること。また、提出物の期限は厳守すること。

科目の目標	症例に合わせた診療補助・口腔保健管理を実践するために、器具・薬剤・術式・指導に対応できる知識・技術・態度を修得する。歯科医療施設について理解を深め、歯科衛生士に求められる役割を理解する。
授業概要	指定された地域の一般歯科医院や施設にて、臨床実習として週に4回実習を行う。実践実習、実習記録の作成を日々行い、臨床の現場で学ぶ。

実務経験	歯科医師、歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

別マニュアルに定める

科 目	総合学習	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	10
		時間数	160
		履修年次	3学年
		実施学期	2、3学期
教員名	竹之内 茜・大谷 悦世他	教員区分	一般教員

教科書	<p>「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリートBOOK Part1」木下淳博 監修（一世出版）</p> <p>「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリートBOOK Part2」木下淳博 監修（一世出版）</p> <p>「高齢者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「障害者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯周病学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「小児歯科」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「人体の構造と機能2 栄養と代謝」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯科矯正学」アイン・歯科衛生士教育マニュアル 監修（クインテッセンス出版）</p> <p>「保健情報統計学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「保健生態学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯科衛生学総論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p>
参考書	「国試の麗人II2020Year Book」DHS 歯科衛生士部、授業資料を適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	3年間の総まとめとして、自主的、積極的に習得する。

科目の目標	歯科衛生士としての総合的な知識、柔軟な思考を身に着ける。
授業概要	1～3年で履修した内容の総復習。

日程

回数	授業内容
1	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ1
2	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ2
3	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ3
4	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ4
5	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ5

78	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ78
79	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ79
80	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ80

科 目	総合学習	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単 位 数	10
		時 間 数	160
		履修年次	3 学年
		実施学期	2、3 学期
教員名	竹之内 茜・大谷 悦世他	教員区分	一般教員

教科書	<p>「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリートBOOK Part1」木下淳博 監修（一世出版）</p> <p>「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリートBOOK Part2」木下淳博 監修（一世出版）</p> <p>「高齢者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「障害者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯周病学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「小児歯科」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「人体の構造と機能2 栄養と代謝」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯科矯正学」アイン・歯科衛生士教育マニュアル 監修（クインテッセンス出版）</p> <p>「保健情報統計学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「保健生態学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p> <p>「歯科衛生学総論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p>
参考書	「国試の麗人II2020Year Book」DHS 歯科衛生士部、授業資料を適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	3年間の総まとめとして、自主的、積極的に習得する。

科目の目標	歯科衛生士としての総合的な知識、柔軟な思考を身に着ける。
授業概要	1～3年で履修した内容の総復習。

日程

回数	授業内容
1	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ1
2	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ2
3	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ3
4	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ4
5	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ5

78	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ 78
79	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ 79
80	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ 80